

1．本堂丸桁の修理状況

本堂の丸桁は全体に破損が進んでいた。貫材と比しても辺材の含有率が高く、上端を中心に虫害が顕著であった。また、東面の北側部分が姑息な修理で切断されているほか中古の改変も認められた。

修理にあたっては、口脇や仕口部分など、当初の仕事を可能な限り残すよう留意し、矧木や継木修理を進めている。



2．本堂礎石の据付状況

割れや剥離などの補損が進んでいた本堂東面北側2箇所の丸柱礎石を据え替えた。

当初礎石は岩盤にほぼ直接乗っていたが、石材が薄く柱の直下で大きく割れていた。このため、十分な強度を確保できる厚さの補足材に取り替えるため、柱据付面を当初と同じ高さに据えられるよう、岩盤の上部をはつり取った。

据付は当初の工法に準じ、岩盤と礎石間に石片を飼い込んで高さや不陸を調整した。

旧材の破損は岩盤と礎石の取り合いの悪さにも起因していたと考えられるため、石底部分を安定させるため、若干のモルタルを挿入した。



3．礎石廻り土間叩き

礎石の据え替え後、掘り方部分を埋め戻し、十分に叩きしめた。

埋め戻しには土間を漉き取った土を再用した。当初の土間が緑泥片岩の礫混じりの土で造成されていたことに準じ、15mm目の粗い篩にかけ、木の根や緑泥片岩以外の硬質な小石を手作業で取り除いた上で石灰とにがりを混入し、叩きしめた。

